《校訓》明朗　剛健　創造

太田中だより

令和３年７月21日発行　厚岸町立太田中学校　第５号

～めざす生徒像～

自ら考え、共に手をとり、ふるさとの未来をつくる太田の子

- 自分の考えをもち、自ら進んで学び、創意工夫する生徒（知）
- 生命を尊重し、互いの存在を思いやり、協力して活動する生徒（徳）
- 自己の心身の健康を保持増進し、体力の向上に努める生徒（体）

鍬（くわ）と筆（ふで）とを共に持つ

校長　沼　田　卓　二

本日で73日間の一学期が終了し、明日より27日間の夏季休業に入ります。

この一学期は、小中合同運動会を皮切りに、参観日や懇談会、１・２年生の宿泊研修、３年生の社会見学など、コロナ禍であっても、「できるところから」挑戦し、様々な学校行事を実施することできました。一歩ずつですが、コロナ以前の学校の姿に戻りつつあることを感じた一学期でした。また、この他に実施したことの一つとして、全校朝会での校歌斉唱があります。体育館の扉を開け、マスクを着用し、十分な身体的距離をとって再開しました。一回の朝会につき今回は一番、今回は二番、と短時間かつ、会話と同程度の声量でおこなっています。

今回は校歌の二番にある「鍬と筆とを共に持つ」という歌詞から考えたことについて、述べさせていただきたいと思います。保護者や地域の皆様もご存じのとおり、太田中学校の校歌は、土崎敏夫氏の作詞、初代校長佐藤保治氏の作曲です。鍬（くわ）は園芸や農作業、土木作業のため、土壌を掘り起こす道具のことです。屯田兵村として先人が太田の開拓に従事した歴史から、土地を切り拓く作業、「開拓」を表わし、筆（ふで）は、学習に使用する筆記用具であり、生徒の「学び」を表わしていると考えられます。これを現在の学校にあてはめてみると、鍬は学校の教育活動。耕すのは実際の土ではなく、自分自身の心と身体。普段の授業や学校行事を通して地域社会とつながり、心と身体を鍛え、自分の人生を切り拓く作業（自分自身の開拓）。つまり「自立」を表わします。そして、その教育活動そのものが「学び」を表わしています。

「鍬と筆とを共に持つ」　この一節は、人生を切り拓く本質が謳われていると思います。ここに込められた意味は、70年以上の時代（とき）を経てなお色褪せることなく、この危機の時代に輝きを放っています。先月も触れさせていただきましたが、二年振りの学校行事で輝く生徒たちの姿を通して学ばせてもらった。そのことから強く感じるのです。改めて先人の慧眼に深く感銘を受けるところです。

この一学期は生徒たちのおかげで太田中学校を前進させることができました。ご協力をいただいた保護者ならびに地域の皆様に厚く感謝申し上げます。二学期におきましても、感染症対策にとりくみ、太田中学校の教育活動を着実に前進させてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

◇　◇

生徒の皆さん。明日からの夏休みは、二学期に向けて充分に英気を養ってください。二学期は、３年生にとっては、進路決定の時を迎える学期です。また、学習発表会など三年間の学校生活を締めくくる大きな行事などが控えています。１・２年生にとっては、先輩からのバトンを託される学期でもあります。二学期によいスタートを切るためにも、夏休み中の過ごし方に気を付けてください。水の事故や交通事故に遭わないよう気をつけて過ごしましょう。そして健康管理も忘れずに。すべての土台は無事故と健康にあります。二学期の始業式で、一回りも二回りも大きく成長した皆さんと会える日を楽しみにしています。

８月の行事予定

日	曜	行事
１	日	夏季休業（～17日）
２	月	レベルアップタイム
３	火	レベルアップタイム
４	水	レベルアップタイム
５	木	レベルアップタイム
６	金	レベルアップタイム
７	土	
８	日	山の日
９	月	振替休日
１０	火	
１１	水	学校閉庁日
１２	木	学校閉庁日
１３	金	学校閉庁日
１４	土	
１５	日	
１６	月	
１７	火	
１８	水	２学期始業式　定時退勤日　図書バス　ALT
１９	木	
２０	金	生活リズムチェックシート配付　研修
２１	土	
２２	日	
２３	月	朝会
２４	火	代表者会議
２５	水	ALT　研修
２６	木	委員会　定時退勤日
２７	金	学力テスト（全学年）
２８	土	
２９	日	
３０	月	
３１	火	

現在、SNSは生徒の間に広く浸透し、連絡手段としての利用は便利なものですが、使い方を誤るととても危険なものへと変わっていきます。特に長期休業中は利用する機会も増えてきます。今一度各ご家庭で使用についてのきまりやルールの確認・徹底をお願いします。